

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①単元目標を明確にし、その中で伸ばす資質・能力を明確にした授業づくりを目指す。本時のめあての確認と振り返りの時間を設け、子どもが判断したり、選択したりしながら主体的に学びを進められるようにする。②重点研究のテーマを「自ら学び ともに考え 行動する台小の子」とし、主体的、協働的に自己調整力を高めようとする姿勢を育成する。
担当 重点研推進	

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力にかかわる児童生徒の実態

●3～5年生の「学力平均」が、昨年度に続き市平均を下回っている。
 ○3～6年生の「生活意識平均」が、昨年度に続き市平均を上回っている。
 ○2～6年生の「学習意識平均」が、昨年度に続き市平均を上回っている。

●6年生国語・算数、5年生国語・算数、3年生算数、の学力レベルが伸びている児童の割合が、市平均と比べると少ない。
 ○4年生国語・算数、3年生国語は、市平均と比べて、学力レベルが伸びている児童の割合が多い。

(2)これまでの学校の取り組み状況
 ○目指す子どもの姿について職員で共通認識をもって、重点研究を始め、日々の教育活動に取り組んできた。
 ○昨年度までの3年間は、国語科を重点研究の教科として取り組んできた。その中でも「個別最適な学び」や「協働的な学び」を意識し、自由進度学習や、学びを選択したり、自己の振り返りを大切にした自己調整力を身につけさせたりすることを学習過程に取り入れてきた。そこで、学び方の選択をする姿や、自らの言葉で振り返りをまとめたり、学びを生かそうとする姿も見られるようになってきた。本年度は、自らの言葉で自分の考えを語り合い、学びを広げられるよう道徳科で研究を進める。

今年度の目標

「自ら学び ともに考え 行動する台小の子」を柱に据え、具体的に、①自分の思いから学習を広げる子(主体性)②自分の言葉で語り合う子③学びを生かそうとする子の子ども姿を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<p>重点研究の道徳科を中心に据えて、以下の③点を具体的に行う。</p> <p>①学習の総合化を図り、カリキュラムマネジメントを行いながら子どもの必要感や自己実現につながる学びを大切に、導入や材、また授号展開を工夫する。 ②子どもたちの語彙力を増やすため、言葉をどの授業でも丁寧に扱ったり、すべての教科において学習で理解したことや、自分の考え等を、自らの言葉で語る機会を多く設定していく。また、語り合える子を育てるためには、誰もが安心して話せるが級風土が不可欠であるため、学級経営、学年経営を教師間で連携して行うとともに、どのクラスでも「聴く力」を育てていく。 ③他者と共同的な学びを進めていくことで、自己の学びが深まったり、考えを広げたりする経験をつませ、次への学習や自分の生活へ生かせるように努める。</p>
下半期	<p>○学校教育目標の実現に向けて職員の組織の中にカリマネ部会を作り、「重点研部会」と「評価部会」に分け、カリキュラムマネジメントと評価の両面から指導を見直し、学力向上につなげる。 ○職員で共通認識した「目指す子どもの姿」について、重点研修の時だけでなく、日頃から学年やブロックでも話題にし、子どもの姿の変容をみとったり、指導の改善にあたったりして、教育活動全体において教師間でも共に学力の向上を目指す。 ○本年度も豊かな語彙力を習得し続けられるよに、言葉による見方、考え方を働かせることができるような授業づくりについて、職員で検討していく。 ○学びを生かそうとすることができるように、生かせる場面や機会の設定やカリキュラムの修正を行う。 ○目指す子どもの姿に近づいているのか、職員で共通認識を図る。</p>